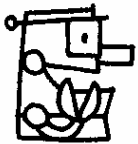


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

血液型がちがうものを輸血すると、どうなるの



ちがう血液型がまじると、血液がかたまったり、血液がこわれて、おそろしい結果になることが多いのさ。

交通じこなどで、大量の血が出ると、体内の血液量が少なくなりすぎて、ほかの人の血をもらって体内に入れないと（輸血という）、助からないことがあります。

こんなとき、まちがって、ちがう血液型の人を輸血したりすると、血液がかたまって血管がつまったり、全身に急激な病気の状態が起こり、死んでしまうことも多いのです。

人間の血液は、^{エー}A^{ビー}B^{オー}O式という分類法で、^{エー}A型、^{ビー}B型、^{オー}O型、^{エー}A^{ビー}B型の4つに大きく分けることができます（実際には、ちがう分類のし方もたくさんあり、血液は、40種類ぐらいの型に分けられるといわれています）。

ふつう、同じ血液型どうしでないかぎり、まぜると血液はかたまってしまうため、輸血には、同じ血液型であることが大切になってくるのです。

ちがう血液型の血液をまぜると、赤血球などがこわされる

血液は、かたまらなくする薬をまぜて置いておくと、血しょうというとう명한液と、下にしずむ血球というもの（赤血球、白血球、血小板などの集まり）に分かれます。

A型の血液にB型の血液をまぜると、A型の血液の血しょうと、B型の血液の赤血球が反応して、血球がくっつき合っかたまりをつくりまします。すると、ふつうは血液中に散らばっている赤血球、白血球、血小板などの血液の成分が、かたまりをつくってしまうため、赤血球がこわれたり、かたまったりして、はげしい病気のような状態が、全身に出るのです。



自分の血液型が何型なのか
知っていないとこわいなあ。